

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

| ※受理番号 | 学 校 | 教 科 | 種 目 | 学 年 |
|----------------|----------------|----------|------|-----|
| 102-79 | 高等学校 | 国語 | 言語文化 | |
| ※発行者の 番号・略称 | ※教科書の 記号・番号 | ※教 科 書 名 | | |
| 104・数研 | 言文・709 | 新編 言語文化 | | |

1. 編修の基本方針

- 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識・技能を培い、確かな国語力を育成する。
- 我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めるとともに、文化の担い手としての自覚を養う。
- 自分の体験や思いを他者に伝えるための、確かな文章の創作力を育成する。
- 作品や文章に表現されたものを読み取る、確かな読解力を育成する。

2. 対照表

| 図書の構成・内容 | 特に意を用いた点や特色 | 該当箇所 |
|-------------|---|--------------|
| 近現代編 | | |
| 地域の「ことば」 | 方言を用いた現代小説の読解から発展させて、さまざまな方言を取り入れた作品にも触れることで、我が国と郷土を愛する態度を養えるようにした。(第5号) | p. 18～p. 35 |
| 「ことば」を吟味する | 辞書編集に勤しむ人々を描いた現代小説の読解を通して、我が国の「ことば」をあらためて吟味する機会を設けることで、我が国の伝統と文化を尊重する心を培うとともに、真理を求める態度・勤労を重んずる態度を養えるようにした。(第1号・第2号・第5号) | p. 36～p. 53 |
| 受け継がれる古典 | 主人公の心情や人物像を深く読み取ることで、真理を求める態度と豊かな情操・道徳心をはぐくめるよう配慮するとともに、当該作品の典拠となった古文作品との比較読解を通して、伝統的な言語文化を尊重する態度を養えるようにした。(第1号・第5号) | p. 54～p. 75 |
| 詩歌を味わう | 近代以降のさまざまな詩歌に触れることで、伝統的な我が国の言語文化の理解が深まるよう配慮するとともに、生命や自然、自他の敬愛などを詠った詩歌の読解を通して、生命・自然を尊ぶ心、公共の精神をはぐくむ心が養えるようにした。また、短歌・俳句の創作を通じて、創造性を培うことができるようにした。(第2号・第3号・第4号・第5号) | p. 76～p. 89 |
| 語感を磨く | 我が国の伝統的な言語文化の一つである俳句を取り入れた現代小説の読解を通して、伝統と文化を尊重する態度を養えるようにした。(第5号) | p. 90～p. 105 |

| | | |
|-------------|---|---------------|
| 「ことば」の力 | 死が迫る妹を思いやる姉の心情理解を通して、自他の敬愛・生命を尊ぶ態度を養えるようにした。(第3号・第4号) | p. 106～p. 125 |
| 文体の魅力 | 主人公の心情や人物像を深く読み取ることで、真理を求める態度と豊かな情操・道徳心をはぐくめるよう配慮するとともに、漢文調の文体に触れることを通して、伝統的な言語文化を尊重する態度を養えるようにした。(第1号・第5号) | p. 126～p. 145 |
| 記録する文学 | 太平洋戦争における沖縄戦を描いた小説の読解を通して、戦争の悲惨さを理解し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるようにした。(第5号) | p. 146～p. 162 |
| 古文編 | | |
| 古文の世界を楽しむ | 古くから語り継がれてきた説話文学に触れることを通して、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する精神を養えるようにした。(第5号) | p. 172～p. 185 |
| 現代にも生きる教え | 古人の豊かな情操に触れることで、真理を求める態度と豊かな情操を培うことができるようにした。また、隠棲者の文学を扱うことにより、自己と社会との関わり方について考察を深められるようにした。(第1号・第3号) | p. 186～p. 199 |
| 昔と変わらない人の心 | 和歌を通して表現されている心情の読解を通して、豊かな情操をはぐくめるようにした。(第1号) | p. 200～p. 213 |
| 和歌が作り出す世界 | 和歌に表現された自然描写を通じて、古来日本で尊ばれてきた自然の美に触れられるようにした。(第4号・第5号) | p. 214～p. 221 |
| 戦乱下の人間像 | 中世の戦乱期における人間像を描いた軍記物語の読解を通して、生命を尊ぶ心と伝統と文化を尊重する態度をはぐくめるようにした。(第4号・第5号) | p. 222～p. 229 |
| 先人を思う旅 | 自然の景観や人間の営みを描いた近世の俳諧紀行文の読解を通して、自然や伝統・文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養えるようにした。(第4号・第5号) | p. 230～p. 232 |
| 漢文編 | | |
| 日本語の中に生きる漢文 | 漢文を読むための基礎的知識の習得を通して、漢文が我が国の言語文化に与えた影響を知ることができるようにした。(第5号) | p. 236～p. 243 |
| 故事と成語 | 故事成語として伝わる漢文の逸話を取り上げることにより、中国の故事と我が国の伝統的な言語文化との関連について理解を深められるようにした。(第5号) | p. 244～p. 257 |

| | | |
|--------|---|---------------|
| 漢詩を味わう | 「中国の漢詩」と「日本の漢詩」を取り上げることにより、日本文学と中国文学の関係性について理解を深められるようにした。(第5号) | p. 258～p. 269 |
| 論語のことば | 古代中国の思想に触れることで、幅広い知識と豊かな情操を養うとともに、自己と社会との関わり方についての考察を深められるようにした。(第1号・第3号) | p. 270～p. 276 |

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- 学校教育法第51条2号「一般的な教養を高め、専門的な知識、技術及び技能を習得させること」を踏まえ、知っておきたい国語的教養に関する「解説」(コラム)を随所に掲載した。
- 学校教育法第51条第3号「社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと」を踏まえ、各教材末の設問では、我が国の言語文化を多角的な視点から考察できる設問を多数用意した。

編修趣意書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

| ※受理番号 | 学校 | 教科 | 種目 | 学年 |
|------------|------------|---------|------|----|
| 102-79 | 高等学校 | 国語 | 言語文化 | |
| ※発行者の番号・略称 | ※教科書の記号・番号 | ※教科書名 | | |
| 104・数研 | 言文・709 | 新編 言語文化 | | |

1. 編修上特に意を用いた点や特色

- (1) 全体
 ① 我が国の言語文化の変遷を解説した「言語文化と近現代」「言語文化と古文」「言語文化と漢文」コーナーを各編の冒頭に収録した。
 ② 教材の読解から発展させて、我が国の言語文化についての知識や理解を深めることができる「ズームアップ」コーナーを設けた。

ズームアップ

辞典？ 事典？ 字典？ 辞書？

■ 辞書の種類
 普段、君たちはどんな辞書を使っているだろうか。「国語辞典」「漢和辞典」「古語辞典」「英和辞典」といったところだろうか。あるいは、それらのすべてが入った「電子辞書」を使っている人も多いかもしれない。

「舟を編む」の主人公公馬縮光也は、辞書編集部に所属し、「大渡海」という「国語辞典」を作っているが、同僚の西岡との会話の中では「能楽事典」というものも出てくる。「辞典」と「事典」これらの違いは何だろうか。「辞典」と「事典」は発音が同じなので、漢字が持つ意味の違いに注目して考えてみよう。



ズームアップ

古語と現代語

古語を学ぶ意義とは

■ 変わりゆく言葉
 古語には、現代語と同じ形をしていたり、似た形をしていたりしても、違う意味を持つ言葉がある。たとえば「鬼のそら寝」(七頁)で学習した「おどろかす」。現代語の意味は「びっくりさせる」だが、この言葉は古語では主に「起こす」という意味で用いられる。

また、「すごし」(意味が悪い・ぞっとする) ↓「すごい」のように、本来悪い印象を表す言葉が、よい印象を表すようになることもある。



- ③ 本編教材との比較読解ができる文章を掲載した「探究の扉」コーナーを設けることで、本編教材の理解がより深められるようにした。
 ④ 各教材の見出し付近に掲載した二次元コードを通じて、さまざまな角度から本編教材の理解を深めることができる「学習用コンテンツ」を多数用意した。
 ⑤ 古典教材には、現代語による古典解説文を掲載した「古典への招待」コーナーを設けた。

古典への招待

4

故事成語を学ぶ

加藤 徹

漢文は人生のスパイスだ。なくても困らないが、あれば味わいが深くなる。「助長」は人間のな話だ。誰にでも夢はある。みんな自分の大切な苗を育てている。成績を伸ばしたい。才能を開花させたい。美しくなりたい。恋を実らせたい。お金をもうけたい。頭では、あせりは禁物だ、とわかっている。でも、つい待ちきれず、せっかくなにか伸ばした苗を、無理やり引っ張ってしまう。それが人情だ。親が子供を叱る気持ちもそう。勉強しろとか、将来を考えると、うるさいことを言う。それで子供が伸びるなら、いい。でも、逆効果になることも多い。子供には自分よりいい人生を歩んでほしい、伸び伸びと育ってほしい、と願う親

探究の扉

一比べ読み

今昔物語集

羅城門の二階に登って死人を見る盗人の話

今となつては昔のことだが、摂津の国のあたりから、盗みを働くために京に上つてきた男が、日がまだ明るかったために、羅城門の下に立ち隠れていた。朱雀大路の方は人の往来が激しいので、人通りが静まるまでと思つて、門の下に立つて待っていたところ、山城の方からも大勢の人が「れまい。」と思つて見ると、若い女が

方からも大勢の人が「れまい。」と思つて見ると、若い女が

芥川龍之介の小説が多いことを知っている。芥川龍之介の小説は、『羅生門』も再構成して書かれた『羅生門』のあらましと『羅生門』との違いが



(2) 近現代編

- ① 教材となる文章は、近代以降の文章から、我が国の言語文化を理解し、親しむことに適したものを精選して収録した。
- ② 作家の略歴を知ることができるとともに、読書活動にもつなげることができる「作者解説」コーナーを設けた。

作者解説

道化の文学者 太宰治

● 県内屈指の大地主

一九〇九（明治四二）年、青森県北津軽郡金木村（現五所川原市）に生まれる。本名津島修治。津島家は金融業によって財を成し、「金木の殿様」と呼ばれるほどの大地主であった。小中学校での学業成績はきわめて優秀で、この頃から芥川龍之介（七〇頁）や志賀直哉らの小説に親しんでいた。

▼ 実生活の破綻と創作開始

一九二七（昭和二）年、弘前高等学校文科に入学生直後、敬愛していた芥川龍之介が自殺する。芥川の

恥の多い生涯を送ってきま
た。自分には、人間の生活
というものが、見当つかないの
です。――（人間失格）

作者解説

繊細な芸術至上主義者 芥川龍之介

わたしは良心を持っていない。
わたしの持っているのは
神経ばかりである。――
（侏儒の言葉）

▼ 秀才少年

一八九二（明治二五）年三月一日は辰辰辰辰辰辰辰にあたる。そして、この日の辰刻に産声をあげたのが、のちに近代日本文学を代表する小説家となる芥川龍之介である。辰辰辰辰辰辰辰に生まれたから「龍（辰辰辰辰辰）」と命名されたという。

小中学校での学業成績はきわめて優秀、少年時代から内外の文学に親しみ、同級生たちと回覧雑誌を作っ
てみずから編集し、表紙やカットまで描くほどの文学少年だった。成績優秀のため現在の東京大学教養学部

(3) 古文編

- ① 体系的な文法学習のために「古文チェックポイント」コーナーを設けて文法解説を施し、同コーナー内には、現代語との関連性が理解できる「知っておきたい日本語の歴史」（コラム）を適宜掲載した。
- ② 作品の背景知識を深めるとともに、読書活動にもつなげることができる「作品解説」コーナーを設けた。

作品解説

平家物語

奈良 平安 鎌倉 室町・戦国 江戸

平家一門の盛衰を紡ぐ

■ 成立・作者・内容

鎌倉時代前期、十三世紀中頃までに、ある程度まとまった形ものが成立していたとされる。作者は未詳。

内容は、平清盛の栄華を頂点として、源氏に敗れ、滅亡していく平家の姿を「諸行無常」「盛者必衰」の道理のもとに語る軍記物語。時系列の本筋に、登場人物の逸話や和漢の説話を絡めながら物語は展開する。数多くの異本があり、琵琶法師の平曲で語られた「語り本」と、読み物としての「読み本」に大別される。

■ 評価・影響

軍記物語の代表作として愛され、能や歌舞伎、近代文学などにも多くの素材を提供した。



能「芭」

作品解説

俳諧紀行文の傑作 おくのほそ道

奈良 平安 鎌倉 室町・戦国 江戸

俳諧紀行文の傑作

■ 成立・作者・内容

江戸時代中期の元禄七（一六九〇）年に清書本が完成。刊行は元禄一五（一七〇〇）年である。作者は松尾芭蕉（一六四四～一七〇六）。本名は宗房。伊賀上野の生まれ。生涯をかけて俳風を革新しつつ、言語遊戯として養生した俳諧を芸術の域にまで高めた。

内容は元禄二（一六五五）年三月から九月にかけて、江戸から奥羽・北陸を経由して美濃国大垣に至り、伊勢に旅立つまでを記した紀行文。

■ 評価・影響

『おくのほそ道』は、単なる旅の実録ではない。極限まで推敲を重ね、フィクションの要素をも織り交ぜて、句と文章が一体となった芸術作品に練り上げられている。和漢の故事を自在に取り込んだ格調高い文章は、日本文学史上屈指の名文として今も親しまれている。

(4) 漢文編

- ① 体系的な句法学習のために「漢文チェックポイント」コーナーを設けて句法解説を施した。

2. 対照表

*配当時数における丸付き数字は「A 書くこと」の時数を示す。

| 単元 | 図書の構成・内容 | 学習指導要領の内容 | | | | | | 該当箇所 [頁] | 配当時数 |
|-----------------|--------------------------|-----------|-----|--------------|---------|---------|-----|-------------|------|
| | | 知識及び技能 | | 思考力、判断力、表現力等 | | | | | |
| | | (1) | (2) | A 書くこと | | B 読むこと | | | |
| | | (1) | (2) | (1) | (2) | | | | |
| | 言語文化と近現代 | | エ・オ | | | | | 16 | 1 |
| 地域の「ことば」 | とんかつ | イ・ウ・エ | エ | | | ア・イ・ウ | イ | 18 | 2 |
| | 【作者解説】三浦哲郎 | | カ | | | | | 32 | |
| | 【ズームアップ】日本語を彩る地域のことば | ア | エ | | | | | 34 | |
| | 舟を編む | イ・ウ・エ | | | | ア・イ | | 36 | |
| 「ことば」を 吟味する | 【作者解説】三浦しをん | | カ | | | | | 50 | 2 |
| | 【ズームアップ】辞典？ 事典？ 字典？ 辞書？ | ウ | | | | | | 52 | |
| | 羅生門 | イ・ウ・エ | | | | ア・イ・ウ・エ | イ | 54 | |
| 受け継がれる 古典 | 【作者解説】芥川龍之介 | | カ | | | | | 70 | 3 |
| | 【探究の扉】今昔物語集 | ア | | | | エ | ウ | 74 | |
| | 六月 | ウ・エ | | | | イ・ウ | | 76 | |
| 詩歌を味わう | サーカス | ウ・エ | | | | イ・ウ | イ | 78 | 2 |
| | 短歌 | ウ | | ア・イ | ア | | | 80 | |
| | 俳句 | ウ | | ア・イ | ア | | | 84 | |
| | 【ズームアップ】詩歌の魅力 | ア | | | | | | 88 | |
| | 側転と三夏 | ア・イ・ウ・エ | | | | イ・ウ・エ・オ | イ | 90 | |
| 語感を磨く | 【作者解説】武田綾乃 | | カ | | | | | 102 | 2 |
| | 【ズームアップ】十七文字の言葉に遊ぶ | ア | | | | | | 103 | |
| | 【探究の扉】春や春 | ア | | | | エ | | 104 | |
| | 葉桜と魔笛 | ア・イ・ウ・エ | | | | ア・イ・ウ・オ | イ | 106 | |
| 「ことば」の力 | 【作者解説】太宰治 | | カ | | | | | 120 | 3 |
| | 【ズームアップ】言葉で伝える、心を届ける | ア | | | | | | 124 | |
| | 名人伝 | イ・ウ・エ | ア | | | ア・イ・ウ・エ | イ | 126 | |
| 文体の魅力 | 【作者解説】中島敦 | | カ | | | | | 140 | 3 |
| | 【探究の扉】山月記 | ウ・エ | | | | エ | | 144 | |
| | 記録する文学 | イ・ウ・エ | | | | ア・イ・エ・オ | ウ | 146 | |
| 古文の世界を 楽しむ | 【作者解説】田宮虎彦 | | カ | | | | | 161 | 3 |
| | 【ズームアップ】ひめゆりの視点から | | カ | | | | | 162 | |
| | 言語文化と古文 | ア | エ・オ | | | | | 164 | |
| 現代にも生きる 教え | 古文に親しもう | | イ | | | | | 166 | 4 |
| | 【古典への招待1】説話集を読む楽しみ | ア | ア | | | | | 172 | |
| | 宇治拾遺物語 | ウ | ウ | | | ア・イ | イ | 174 | |
| | 【古文チェックポイント1】古文の学習 | | ウ | | | | | 177 | |
| | 【古文チェックポイント2】古典文法 | | ウ・エ | | | | | 182 | |
| | 【作品解説】宇治拾遺物語 | | イ・カ | | | | | 184 | |
| | 【ズームアップ】古語と現代語 | | ウ・エ | | | | | 185 | |
| | 【古典への招待2】ジョブズと『徒然草』 | ア | ア | | | | | 186 | |
| 徒然草 | | ウ | | | ア・イ・ウ・オ | イ | 190 | | |
| 昔と変わらない 人の心 | 【古文チェックポイント3】動詞・形容詞・形容動詞 | | ウ・エ | | | | | 196 | 4 |
| | 【作品解説】徒然草 | | イ | | | | | 198 | |
| | 【ズームアップ】世の中を見つめる目 | | イ | | | | | 199 | |
| | 【古典への招待3】とりあえず、男がいた | ア | ア | | | | | 200 | |
| | 伊勢物語 | オ | ウ | | | ア・イ・オ | イ・エ | 204 | |
| 和歌が作り出す 世界 | 【古文チェックポイント4】助動詞 | | ウ・エ | | | | | 210 | 4 |
| | 【作品解説】伊勢物語 | | イ | | | | | 212 | |
| | 【ズームアップ】『伊勢物語』と『源氏物語』 | | イ | | | | | 213 | |
| | 万葉集 | オ | ウ | ア・イ | ア | | | 214 | |
| 戦乱下の 人間像 | 古今和歌集 | オ | ウ | ア・イ | ア | | | 216 | 5 |
| | 新古今和歌集 | オ | ウ | ア・イ | ア | | | 218 | |
| | 【探究の扉】和歌を訳す | | | | | エ | エ | 220 | |
| 先人を思う旅 | 平家物語 | エ | ウ | | | ア・イ | イ | 222 | 4 |
| | 【作品解説】平家物語 | | イ | | | | | 228 | |
| 日本語の中に 生きる漢文 | 【ズームアップ】和漢混交文 | | オ | | | | | 229 | 4 |
| | おくのほそ道 | | ウ | | | ア・イ | | 230 | |
| | 【作品解説】おくのほそ道 | | イ | | | | | 232 | |
| 物語と成語 | 言語文化と漢文 | | ア・エ | | | | | 234 | 4 |
| | 訓読のきまり | | ウ | | | | | 236 | |
| | 格言 | | ウ | | | | | 238 | |
| | 【漢文チェックポイント】訓読の基本 | | ウ | | | | | 240 | |
| 故事と成語 | 【ズームアップ】漢文由来の名付け | | ア | | | | | 242 | 4 |
| | 【古典への招待4】故事成語を学ぶ | ア | | | | | | 244 | |

| | | | | | | | | | |
|--------|---------------------|-------------------------------|-----|---------|--|-------|---|-----|---|
| | 助長 | | | | | イ | | 248 | |
| | 漁夫の利 | | | | | イ | | 250 | |
| | 虎の威を借る狐 | | | | | イ | | 252 | |
| | 管鮑の交わり | | | | | ア・イ | | 254 | |
| | 【ズームアップ】故事成語の用例を探そう | | ア | | | | | 256 | |
| 漢詩を味わう | 中国の漢詩 | | ウ | | | ア・ウ・オ | | 258 | 4 |
| | 日本の漢詩 | | | | | ア・ウ・オ | | 264 | |
| | 【探究の扉】うらかな春 | | ア・エ | | | エ | ウ | 266 | |
| 論語のことば | 論語 | | | | | イ・オ | | 270 | 4 |
| | 【探究の扉】慶火事 | | ア | | | エ | オ | 274 | |
| | 【作品解説】論語 | | イ | | | | | 276 | |
| 配当時数合計 | | A 書くこと [丸付き数字は「書くこと」の配当時数を示す] | | | | | | 9 | |
| | | B 読むこと | | 古典 | | | | 40 | |
| | | | | 近代以降の文章 | | | | 21 | |
| | | | | 合計 | | | | 70 | |